

第 9 回北東アジア OSS 推進フォーラム議長声明（仮訳）

2010 年 11 月 4 日

北東アジア OSS 推進フォーラムは、3 カ国の産学官およびコミュニティの知を結集して、OSS の普及促進を目指し、アジアと全世界において貢献するべく 2004 年に設立された。3 つのワーキンググループが、フォーラムの目標を達成するために組織化された。WG1 は、Technology Development & Assessment(技術開発と評価)を、WG2 は、Human Resource Development(人材育成)を、そして WG3 は、Study on Standardization and Certification(標準化)を担っている。これらのワーキンググループの活動は、3 カ国のオープンイノベーションに基づく様々な成功例として共有されている。

北東アジア OSS 推進フォーラムは今年で 9 回目の開催となった。本フォーラムの閉会に際し、私たちは、3 カ国の協調を通して OSS を活発に推進するための結論を導き出した。

以下は、2010 年の重要な結果である。

WG1:

“The OpenDRIM Project”は、Linux サーバ向けのリソース管理ツール群である“OpenDRIM2010”を 2010 年 11 月にリリースする。2009 年に Ubuntu コミュニティと協力して以来、OpenDRIM で開発された 21 の CIM プロバイダーモジュールを Ubuntu コミュニティに提供し、2010 年 10 月には、Ubuntu の Maverick バージョンの公式のパッケージとして採用された。

WG1 は、2010 年に“The OpenDRIM Project”が WG1 から卒業し、そして、プロジェクト概要、開発活動、成果、及び習得したことを記述した白書を 2010 年 12 月に発行することに合意した。

“The Crackerjack Project”は、Linux カーネルのバージョン間での互換性をテストするツール Crackerjack バージョン 3.2 を 2010 年 10 月にリリースした。このリリースでは、テストケースにおけるバグのすべてが修正され、最新のカーネルにおける 317 のシステムコールすべてがサポートされた。さらに、The Crackerjack プロジェクトと RedHat は、RedHat が Crackerjack テスト Suites を使用した RHEL6 との互換性テスト結果を公開することに同意した。CJK(日中韓)は、他のプラットフォームへの Crackerjack テスト Suites の拡大について議論することに同意した。

残念ながら、これらの 2 つのプロジェクトでは、コミュニティにおいても企業において

も大きな活動につながっていない。従って、CJK フォーラムは成果の普及促進メカニズムを充実させるべきである。

The Cloud Computing Task Force は、4 回会議を開催したが、クラウドコンピューティング分野の CJK の活動を理解する上で非常に重要なミーティングだった。CJK は電子政府とクラウドコンピューティング分野での共同活動を強化するであろう。

WG1 の活動は、世界のコミュニティへの非常に重要な貢献として認められた。さらに、WG1 は、単なる OSS の開発・評価活動に留まらず、WG1 を活性化するため、各企業のビジネスにつながるような活動にも取り組んでいくことを決めた。

WG2:

WG2 は 2009 年 12 月に“ソフトウェア工学教育のための北東アジア(NEA)OSS サンプルカリキュラム(Draft 2.0)”を発行した。WG2 はカリキュラムを改良し続け、2011 年に新しいサンプルカリキュラム(Draft 3.0)をリリースする。CJK はそれぞれの国において、NEA OSS サンプルカリキュラムを基にして、広い領域の HRD 活動を実施した。

さらに、サンプルカリキュラムを推進し、改良するため“NEA OSS Wiki”を立ち上げた。また、WG2 は、ソウルにおける第 9 回フォーラムにおいて、OSS トレーニングキャンプを成功裡に開催した。3 カ国による講師は OSS に関する非常に貴重な知識を提供した。そして、CJK は、OSS トレーニングキャンプを続けて、先導的 OSS の知識を共有する方法の改善に同意した。WG2 は、より堅固な相互理解の基礎を築くため、共同 HRD 調査を行うことに合意した。

WG2 は今回のフォーラムで OSS HRD を推進するため、第 5 回 CJK OSS Award と第 3 回 CJK OSS Special Contribution Award を実施した。そして、全てのフォーラム参加者が OSS コミュニティ活動と OSS 技術開発に関する受賞者の努力を賞賛した。

WG3:

Future Work Task Force が 2009 年に設立されて以来、WG3 は今後の計画と活動項目を模索する努力をしてきた。最終的に、WG3 は OSS 成熟度評価分野で協力して作業することに合意した。これを効率的に実施するため、WG3 は OMATF (OSS Maturity Assessment Task Force) を立ち上げた。

OSS の分類、OSS 評価システムの設計、OSS 特性の収集・分類等についての検討が、今後 OMATF によって行われる。第一歩として、WG3 は 2010 年に約 100 のポピュラーな OSS の評価を行うとともに、その結果を公開するために wiki サイトを立ち上げた。そして、WG3 は継続してより多くの OSS を評価し、その評価情報をアップデートする。ドキュメント公表とコンテンツ管理を実施するために www.neaossforum.org/nea_wgs3_2 に Web サイトを立ち上げた。さらに、WG3 は、他の今後の活動プランと宿題について議論するために“Future Work Task Force”を続け

る。

CJK フォーラムは WG3 の成果の活用とその促進を強化する。

我々は、産官学およびコミュニティからの北東アジア OSS 推進フォーラムへの参加者各位に感謝する。私たちの活動の基礎を提供してくれている世界の OSS コミュニティに深く感謝する。

北東アジア OSS 推進フォーラムは、今後の活動方針と OSS を活用したモデルプロジェクトについて議論する。

CJK3 カ国の議長は、ワーキンググループ活動を支援するため、経済的で環境に優しいフォーラムの追及に同意した。

第 10 回北東アジア OSS 推進フォーラムは、来年 2011 年に中国で開催される。我々は、3カ国のみならず、アジア地域の情報産業の成長を通して OSS 市場が拡大する努力を続ける。